

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
専門学校 麻生リハビリテーション 大学校		平成13年3月30日		安藤 廣美		〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1 (電話) 092-436-6606																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																							
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																							
医療	医療専門課程	作業療法学科 (昼間部)			平成25年文部科学省 告示第3号	—																							
学科の目的	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科は、教育基本法に則り、学校教育法並びに理学療法士及び作業療法士法に従い、高齢化社会、医療技術の高度化、リハビリテーションの専門化に対する人材確保の一翼を担い、医療及び保健福祉活動の充実発展に貢献するために作業療法士を養成する事を目的とする																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
3年	昼間	2930時間	1050時間	870時間	1010時間	0時間	0時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
120人	99人	0人	6人	26人	32人																								
学期制度	■前期:04月01日～08月31日 ■後期:09月01日～03月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科試験、実習評価及び学習状況の総合評価とし、60点以上を合格点とする																								
長期休み	■夏季:08月13日～08月15日 ■秋季:08月26日～09月07日 ■冬季:12月25日～01月04日 ■春季:03月09日～04月06日			卒業・進級条件	(進級)規定の出席率(欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内)且つ学科試験・実習評価が60点以上をもって合格、単位履修、ならびに各学年の教育に基づいたものとする (卒業)全単位履修並びに欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内とする																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および主任による個人面談随時実施し、必要に応じて三者面談や個別支援体制を実施している。			課外活動	■課外活動の種類 実習病院でのボランティア 地域でのボランティア その他ボランティア ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 医療機関・施設 ■就職指導内容 就職事前指導をスタートして、履歴書の添削および面接指導等を個別に随時行っている。 ■卒業者数 : 34 人 ■就職希望者数 : 28 人 ■就職者数 : 28 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 82.4 % ■その他 ・国家試験不合格 5人 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士</td> <td>②</td> <td>34</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	作業療法士	②	34	29												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																										
作業療法士	②	34	29																										
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 2 % 平成30年5月1日時点において、在学者100名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者98名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路の変更・学業不足 ■中退防止・中退者支援のための取組 随時担任・主任面接実施。保護者との連携における情報交換 学業支援に対してはセミナー、個別居残り学習、担任による指導を行う。																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する 東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金、校納金、寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数: 11名																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 ・全国専門学校リハビリテーション協会																												
当該学科のホームページURL	http://www.asoju.ac.jp/arc/subject/ot/																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

養成教育は、その時々々の社会環境により影響を受けた医療状況の変化を速やかに反映しなければならない。医療技術の進展や患者様のニーズにより広がりを見せるリハビリテーション領域の教育に企業との連携は不可欠である。具体的には、カリキュラム作成に際して、養成教育の開始次期における動機付けのための学習や養成教育の要である臨床実習の事前・事後指導の指導に対して臨床の現場である企業からの提言を取り入れ、より現場に即した方法で、医療サービス提供のための教育内容の検討を図れる関係の構築をすすめる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、常に変化する保健・医療・福祉分野の動向を見据えて、養成校の独りよがりな教育とならないように現状に合った教育の水準を担保すべく中核となる組織である。ここでは多角的な視野からの検討評価をもとに、今後のリハビリテーションを担う人材の育成のあり方を追求することを目的とし、教務会議の一環として年2回開催される。またこの委員会の検討をもとに、さらに下部組織としてのカリキュラム会議において、より柔軟な実践能力向上に向けたカリキュラム改善に反映されるものとする。特に各科目の習熟の集大成である「臨床実習」につながる授業の内容や「臨床実習」自体の内容や評価項目について検討し改善をおこなう。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
黒木 勝仁	福岡県作業療法協会 理事(原三信病院)	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
日高 幸彦	株式会社麻生 飯塚病院	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
山下 智弘	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション科 医師	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
兵道 哲彦	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 副技師長	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
加来ゆかり	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
大内田 由美	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科 主任		
竹中 祐二	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科 副主任		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回 9月と3月に実施

(開催日時(実績))

第1回 平成30年 9月19日 18:00～20:00

第2回 平成31年 3月20日 17:00～19:00

第1回 令和元年 6月28日 18:00～20:00

(開催日時(予定))

第2回 令和元年 10月23日 18:00～20:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

作業療法学科から作業療法協会の臨床実習ガイドラインの説明が行われた。また今後の臨床実習指導者の要件についての研修会の紹介が行われ、臨床実習指導者に研修会受講の促しが行われた。委員からは今後の臨床実習にあり方に向けて診療参加型実習の準備を行うことと、今後も意見交換を行っていくことが求められた。会議を受け委員からの意見を参考に今後の臨床実習のありかたを検討中である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携による実習は実習指導者の下でリハビリテーションおよび作業療法の実践を学ぶとともに、職業人・社会人としての態度を学ぶことであり、さらには、臨床実習指導者の指導の下、作業療法士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習することである。
 本校の臨床実習では、実習指導者の指導の下、診療参加させていただき多くの症例経験を通して、情報収集・評価・作業療法計画立案・作業療法実施および記録報告等の一連の理学療法を実践する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

作業療法学科では教育課程編成委員会において、協力病院から臨床実習方針についての意見を伺い、今年度の内容について十分議論し、実習方針を決定している。
 各実習指導者と担当教員による実習生への包括的な指導を行なうため、実習開始前に実習先医療機関の実習担当者と会議を行い、学校の方針や実習施設での特徴を踏まえた実習指導についての情報交換を行っている。さらに実習前には連携している実習施設より指導者を招聘し実習の在り方や内容について講演をいただき、またOSCEでは臨床実習施設の作業療法の先生方から実技指導を受けている。
 実習期間中は担当教員が随時電話連絡を行い、期間の中間時に実習施設の訪問し、その後相互で実習進捗を確認し、その指導状況を実習生にフィードバックしていく。実習後は実習担当者会議を行い、結果報告と反省会を行い、表出した課題を次年度への計画に活かしている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	臨床の場で、患者の評価、作業療法プログラムの作成を学び、学校で修得した理論と技術を応用し、問題解決を図る基本を学ぶことをはじめとして、病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、作業療法士部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての作業療法士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設
臨床実習Ⅱ	臨床の場で、患者の評価、作業療法プログラムの作成からプログラム実施まで学び、学校で修得した理論と技術を応用し、患者のリスク管理と問題解決を図ることを学ぶ。また病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、作業療法士部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての作業療法士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。併せて作業療法士協会等にて専門分野の研修も同様に教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、定期的な受講させる。この研修はその内容を他教員へ報告することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：「第52回日本作業療法学会」(連携企業等：日本作業療法士会)

日程：平成30年9月7日～9月9日

対象：教員2名

目的：作業療法士の全国大会であり最新の知見を学ぶ。

内容：テーマ『根拠に基づいた作業療法の展開』

研修名:「認定作業療法士取得研修(共通研修)研究法」(連携企業等:日本作業療法士協会)

日程:平成30年7月14日～7月15日

対象:教員1名

目的:認定作業療法士修得のための研修会

内容:内容:認定作業療法士の資格修得のための基礎研修で基本的な研究法について学び、事例研究についての理解と事例報告への意識を高める。

研修名:「第28回日本作業行動学会学術集会」(連携企業等:日本作業行動学会)

日程:平成30年6月16日～6月18日

対象:教員1名

目的:行動療法における作業療法のかかわりについて学ぶ。学会発表有り。

内容:テーマ『「再考;理論としてのセラピスト自己活用とは 今再びの自己活用～磨かれるわざ;態度・技術・職業』

研修名:「CI Therapy ハケ岳技術研修」(連携企業等:タナベセラピー研究会)

日程:平成30年6月8日～6月11日

対象:教員1名

目的:脳卒中片麻痺の機能回復アプローチの一つであるタナベセラピーについて学ぶ。

内容:タナベセラピー(CI Therapy)の解説と実習

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「カウンセリングⅡ」(連携企業等:日本交流分析協会)

日程:平成30年4月25日 16:00～17:30

対象:教員1名

目的:体験実習をとおして、傾聴の意義と技法を習得する。(新任教員対象)

内容:カウンセリングにおける傾聴の意義と技法。傾聴の技法、体験実習、個別面談の心得。

研修名:「JCORE評価員研修会」(連携企業等:(一社)リハビリテーション教育評価機構)

日程:平成30年5月20日

対象:認定評価員(教員)1名

目的:学校評価(書面評価・実地評価)に関する研修

研修名:「人権・同和問題合同研修」(連携企業等:福岡市人権啓発センター)

日程:平成30年8月6日

対象:教員1名

目的:障害者差別解消法の施行に伴い、同法の周知や障がい者の人権への意識高揚とともに、各企業での人権教育・啓発に活かすことを目的とする。

研修名:「中堅教員研修」(連携企業等:(一社)福岡県専修学校各種学校協会)

日程:平成30年8月9日-10日

対象:教員1名

目的:「学級経営・学生対応(学級経営の効果的手法と学生の個別カウンセリング)」

内容:Q-Uアセスメント専門学校版を用いて、Q-Uの意義や理論、実践方法を学び、教員個々の指導力向上を目指す。

研修名:「インストラクショナルデザインⅡ」(連携企業等:一般社団法人全国専門学校教育研究会)

日程:平成30年8月29日 9:00～17:30

対象:教員1名

目的:育成人材像に基づいた体系的カリキュラムの構築を習得する。

内容:3ポリシーについて、学科目標・教科目標の整理、学科カリキュラムの見直し・改善

研修名:「コーチング実践」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)

日程:平成30年8月30日 13:00～17:30 or 9月5日 13:00～17:30

対象:教員1名

目的:学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる、学生支援スキルを高める。

内容:学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ。

研修名:「OSCE研修会」(連携企業等:藤田保健衛生大学医療科学部・金原出版)

日程:平成30年9月13日～14日

対象:教員2名 目的:次期指定規則改定に向けた準備のため。

内容:OSCEの運用について学ぶ

研修名:「第23回日本作業療法教育学術集会」(連携企業等:日本作業療法教育研究会)

日程:平成30年10月13日～14日

対象:教員2名

目的:専攻分野の教育系研究会で各校の研究発表が行われ最新の知見を学ぶ。

内容:テーマ『養成教育・臨床教育の方法論考究』

研修名:「第31回教育研究大会・教員研修会」(連携企業等:全国リハビリテーション学校協会)
日程:平成30年8月24日～8月25日
対象:教員1名
目的:リハビリテーション学校協会の教育大会であり、最新の知見を学ぶ。
内容:テーマ「社会の変化とリハビリテーション教育の接点を考える」

研修名:「専門学校における効果的なインストラクショナルデザインの利用方法研修会」
(連携企業等:全国専門学校教育研究会)
日程:平成30年8月22日～8月23日
対象:1名
内容:専門学校における効果的なインストラクショナルデザインの利用方法

研修名:「実践行動学セミナー」(連携企業等:ウィネット)
日程:平成30年7月12日
対象:1名
内容:退学防止に向けた取り組み。アクティブラーニングの実践。

研修名:「臨床技能とOSCE研修会」(連携企業等:藤田衛生保健衛生大学)
日程:平成30年9月1日～9月2日
対象:1名
内容:OSCE(客観的臨床能力試験)の概要、目標設定、実施要綱について学ぶ。

研修名:「第1回臨床実習指導者研修会」(連携企業等:日本理学療法士協会)
日程:平成31年2月16日～2月17日
対象:4名
内容:臨床実習指導者講習会の講師養成のための研修会。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「臨床研修」(連携企業等:各医療機関)
目的:臨床から離れ、永く養成教育に携わる際の臨床との隔離を防ぎ、常に最新の知識と技術を持って養成教育に当たることを目的とする。
日程:平成31年4月1日～令和2年度3月31日
内容:各医療機関において毎週1回、医療機関の臨床現場のセラピストとともに臨床研修を行う。
対象:全教員

研修名:「認知矯正療法(NEAR)訓練ワークショップ」(連携企業等:国立精神・神経医療研究センター 病院)
日程:平成31年4月13日～4月15日
対象:1名
目的:認知リハビリテーションのひとつの手法を学び、授業内容に還元する。
内容:精神疾患の認知機能障害に対するエビデンスに基づく心理社会的治療アプローチを学ぶ。

研修名:「がん領域における看護ケアとリハビリテーション」(連携企業等:日本離床研究会)
日程:令和元年5月18日～5月19日
対象:1名
目的:癌リハビリテーションの基礎知識を理解する。
内容:癌の急性期から終末期の対応まで学ぶ。

研修名:「九州ハンドセラピー研修会」(連携企業等:九州ハンドセラピー研究会)
日程:令和元年5月18日～5月19日
対象:1名
目的:ハンドセラピーについての基礎知識を事例を通して理解する。
内容:テーマ「症例を通して実践的なセラピーを学ぶ」

研修名:「第29回日本作業行動学会学術集会」(連携企業等:日本作業行動学会)
日程:令和元年6月8日～6月9日
対象:2名
目的:人間作業モデルの最新の知見を学ぶ。
内容:テーマ「人間作業モデルの近未来」

研修名:「人間作業モデル講習会」(連携企業等:日本人間作業モデル研究所)
日程:令和元年6月15日～6月17日
対象:1名
目的:人間作業モデルを用いた作業療法の実際を学ぶ。
内容:人間作業モデルの理論・評価法概説・治療介入の方法

研修名:「第1回九州作業療法学会」(連携企業等:九州作業療法学会)

日程:令和元年6月22日～6月23日

対象:4名

目的:九州地区の作業療法学会にて、学生の発表を支援するとともに、最新の知見を得る。

内容:専攻分野の九州学会であり、最新の知見を学ぶ。学会発表あり。

研修名:「児童福祉領域における作業療法の意見交換会」(連携企業等:日本作業療法士協会)

日程:令和元年7月14日～7月15日

対象:1名

目的:発達分野にて情報交換の機会を得て、収集した知識を学生に還元する。

内容:児童福祉分野の制度に関する行政説明と作業療法士による実践報告、および地域で働く作業療法士と意見交換をする。

研修名:「第53回日本作業療法学会」(連携企業等:日本作業療法士会)

日程:令和元年月9月6日～9月8日

対象:教員

目的:作業療法士の全国大会であり最新の知見を学ぶ。

内容:テーマ『作業療法研究のターニングポイント』

研修名:「認知神経リハビリテーション・ベーシックコース」(連携企業等:日本認知神経リハビリテーション学会)

日程:令和元年月9月14日～9月15日

対象:教員

目的:認知理論に基づいたリハビリテーションアプローチの基礎を知る。

内容:認知神経リハビリテーションの基礎理論と実践演習

研修名:「第23回福岡県作業療法学会」(連携企業等:福岡県作業療法協会)

日程:令和2年月2月15日～2月16日

対象:教員

目的:福岡県の作業療法学会にて情報収集を行うとともに最新の知見を学ぶ。

内容:テーマ『構(Set Up)～その人らしさを描く作業療法のアイデンティティ～』

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「カウンセリング I」(連携企業等:産業カウンセラー)

日程:平成31年4月24日

対象:2名

目的:カウンセリングの基礎を知る。

内容:学生支援に活かすカウンセリング

研修名:「専修学校教員 新任教員研修会」(連携企業等:福岡県専修学校各種学校協会)

日程:令和元年8月6日～8月8日

対象:2名

目的:教員の教育力向上

内容:専修学校教員の指導力向上のため基礎知識を確実に身につけてもらことを目的として参加。

研修名:「第1回OSCE研修会」(連携企業等:藤田療法士教育研究会)

日程:令和元年8月2日～8月4日

対象:2名

目的:新カリキュラムに伴う、臨床実習の体系化に向けた情報収集

内容:OSCEの基礎とコミュニケーション技法・検査測定編

研修名:「コーチング実践」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)

日程:令和元年8月7日

対象:1名

目的:コーチングの構造を理解し、効果的な学生支援を知る。

内容:学生指導・保護者対応に活かすコーチングの演習

研修名:「第46回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会」(連携企業等:医療研修推進財団)

日程:令和元年8月19日～9月7日

対象:1名

目的:リハビリテーション関連職種養成校教員として必要な知識を学ぶ。

内容:教育学や具体的に授業を展開していくための講義と演習

研修名:「人権・同和問題合同研修」(連携企業等:福岡市人権啓発センター)
 日程:令和元年8月22日
 対象:1名
 目的:人権への意識高揚とともに、各企業での人権教育・啓発に活かすことを目的とする。
 内容:人権の関連法規、問題事例について学ぶ。

研修名:「第24回日本作業療法教育学会」(連携企業等:日本作業療法教育研究会)
 日程:令和元年10月12日～13日
 対象:教員
 目的:『リフレクション～作業療法教育の中でどう学習者の内省を育てるか～』

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人人材像、他
(2)学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5)学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11)国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

リメディアル教育や普段の学習においてICT教育の取り組みや企業との連携による教育の可視化に対する取り組みについて評価をいただいた。その他留学生や障害を有する学生への受け入れ態勢、ハラスメントに対する取り組みに課題があるように意見をいただいた作業療法学科では発達障害を有する学生もいるので個別に対応するように取り組みを行った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
西村 天利	平成18年度 理学療法学科卒業生	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
小波 昌之	地域住民	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	地域住民
久保田 勝徳	福岡県理学療法士会 理事(福岡桜十字病院)	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等
黒木 勝仁	福岡県作業療法協会 理事(原三信病院)	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等
栴 史人	福岡県言語聴覚士会 理事(生活介護 風の丘)	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等
日高 幸彦	言語聴覚学科保護者	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	PTA
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等
尾崎 祥一	福岡県立稲築志耕館高校 校長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	高等学校

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/arc/2019/hyoka.pdf>

公表時期:令和元年7月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、10つの特徴
(2)各学科等の教育	入学受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格取得実績、就職実績
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校生活、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	グローバル教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

<http://www.asojuku.ac.jp/arc/>

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			生理学	人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。	1前	60	4	○			○			○		
○			生理学演習	実習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。	1後	60	2		○		○				○	
○			運動学	運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。	1前	60	4	○			○			○		
○			運動学演習	・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行) ・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようにする。(変形、異常歩行)	1後	60	2		○		○			○		
○			人間発達学	作業療法を実施するうえで基本となる発達過程を理解する。さまざまな発達領域における理論的枠組みとそれらが相互的に関係しあっている生じる発達の多様性を学習する。	1後	30	2	○	△		○			○		
○			病理学	病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝的、構造学的、細胞学的、免疫学的、主要額的に理解できるようになることを最終目標とする。	1後	30	2	○			○				○	
○			一般臨床医学	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の原因や基本的な診断・治療について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める。	1前	30	2	○			○				○	
○			整形外科学Ⅰ	整形外科の基礎知識、治療法、疾患について理解する。 整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			整形外科学Ⅱ	整形外科の基礎知識、治療法、疾患について理解する。 整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解する。	2前	30	2	○			○				○	
○			内科学Ⅰ	作業療法実施において不可欠な、内科学の知識の習得する。	1後	30	2	○			○				○	
○			内科学Ⅱ	作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。	2前	30	2	○			○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			神経内科学Ⅰ	神経内科の基礎知識の習得	1後	30	2	○			○			○		
○			神経内科学Ⅱ	疾患各論の理解	2前	30	2	○			○				○	
○			小児科学	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。	2前	30	2	○			○				○	
○			臨床心理学	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			精神医学Ⅰ	①精神機能や精神疾患についての理解 ②精神疾患の症状や治療・福祉などについて理解する	1後	30	2	○			○				○	
○			精神医学Ⅱ	精神医学について、作業療法士として必要な知識の習得をおこなう。	2前	30	2	○			○				○	
○			老年医学	老年学に関する基本的な医学知識（病態、診断、治療、リハビリ）の習得を目指す。	2前	30	2	○			○				○	
○			リハビリテーション概論	医療についての考え方を知り、医療全般のしくみ、およびリハビリテーションについて学ぶ。	1前	30	2	○			○			○		
○			保健医療福祉制度論	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらう。	2前	30	2	○			○				○	
○			作業療法理論	・様々な体験を通して「作業」について理解する。 ・作業療法の基本的実践理論について理解する。	1前	30	2	○	△		○	△		○		
○			基礎作業学実習Ⅰ	①作業療法で用いる様々な作業の基本的な知識と技術を習得する。 ②各作業を遂行するうえで必要な身体的および心理的機能を理解する。 ③各作業を遂行するうえでの周囲の人的および物理的環境との関係を理解する。 ④グループ学習を通して、自分自身についての理解を深める。	1前	60	2			○	○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			基礎作業学実習Ⅱ	①作業療法における作業の必要性と意義について理解する。 ②作業分析の定義、目的、種類について理解する。 ③作業分析を実際に体験する。 ④基本的な指導法について理解する。 ⑤作業指導を実際に体験する。 ⑥作業の治療的な適用のしかたを理解する。	2前	30	1			○	○		○			
○			作業療法概論	作業療法を概観し、その理念、定義、歴史、具体的実践を学び、医療福祉の中での作業療法の位置付けを知る。	1前	30	2	○		△	○	△	○			
○			作業療法評価学Ⅰ	①作業療法プロセスにおける評価とは何かを理解する。 ②作業療法では、対象者のどのような情報を収集するのかを理解する。 ③作業療法特有の評価を演習することで、作業療法の視点を身につける。 ④評価によって得た情報を統合して考える事ができる。	1後	30	2	△	○	△	○			○		
○			作業療法評価学Ⅱ	①リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。 ②評価法の種類と方法を知る。 ③評価結果の意味するものを学ぶ。	2前	60	4	△	○	△	○			○		
○			作業療法評価学演習	①リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。 ②評価法の種類と方法を知る。 ③評価結果の意味するものを学ぶ。 ④収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける。	2後	60	2	△	○	△	○			○		
○			身体障害作業療法学	①身体障害の概念を理解する。 ②身体障害に対する作業療法の基本的考え・役割・流れを理解する。 ③作業療法の対象となる代表的な疾患について理解する。 ④様々な疾患と障害に対する作業療法の具体的介入方法を理解する。	2前	60	4	△	○	△	○			○		
○			身体障害作業療法学演習	①身体障害の概念を理解する。 ②身体障害に対する作業療法の基本的考え・役割・流れを理解する。 ③作業療法の対象となる代表的な疾患について理解する。 ④様々な疾患と障害に対する作業療法の具体的介入方法を理解する。	2後	60	2	△	○	△	○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			発達障害作業療法学	発達障害の作業療法を実施するうえで必要な、知識基盤、理論的基盤、技法を理解する。	2前	60	4	△	○		○	△	○		
○			発達障害作業療法学演習	発達障害の作業療法を実施するうえで必要な、知識基盤、理論的基盤、技法を理解する。	2後	30	1	△	○	△	○		○		
○			精神障害作業療法学Ⅰ	①精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を知る。 ②精神保健・福祉領域における法律・施策を理解する。 ③精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を理解する。 ④精神科作業療法の構造・要素を理解する。 ⑤精神障害特性・モデルと回復過程を理解する。	2前	60	4	△	○		○	△	○		
○			精神障害作業療法学Ⅱ	①精神障害作業療法の概略と作業療法の実践理論を理解する。 ②精神障害作業療法における評価とその視点を理解する。 ③精神障害作業療法のプロセスと構造、実践を理解する。 ④生活を支える視点と作業療法を理解する。 ⑤疾患別の作業療法実践について理解する。	2後	60	4	△	○		○		○		
○			老年期障害作業療法学	①高齢者・老年期の特性について理解する。 ②老年期障害のリハビリテーション、作業療法について理解する。 ③認知症とその作業療法について理解する。	2後	30	2	○			○		○		
○			高次脳機能障害作業療法学	脳疾患や脳外傷などに起因する、高次脳機能障害について基礎知識を学び、それを基に各症状に対する検査、作業療法アプローチ技法を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
○			義肢学	義肢（義手、義足）についての適応、構造、その効果に関する知識のみならず、その作成に関わる制度やその調整方法を含めて、臨床での事例も紹介しながら学習する。	2前	30	2	△	○		○		○		
○			装具学	①装具の目的と給付体系、装具両方における作業療法士の役割を理解する。 ②各種装具の装着目的及び目的達成のために配慮された形態的特徴を知る。 ③装具のチェックアウトの要点を学ぶ。 ④疾患に対する装具の役割を学ぶ。 ⑤装具製作実習を通し、基本技術を習得し、装具の構造に対する理解を深める。	2後	30	2	△	○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ADL支援学	①福祉用具の概念を学び、その給付体系を知る。 ②福祉用具に関する作業療法士の役割を理解する。 ③福祉用具の適応とADLを関連付けて理解する。 ④疾患別における移動動作の指導および援助を実践することができる。 ⑤事例を通して作業療法プログラムを立案することができる。	2後	60	2	△	○	△	○		○		
○			ADL	①人の生活の中における日常生活活動の位置づけを理解する。 ②日常生活活動を遂行するための心身機能や影響因子について理解する。 ③身体障害領域で用いるADL評価について理解する。 ④疾患別の移動補助具について理解を深め、適切に使用することができる。 ⑤疾患別におけるセルフケア動作への介入の思考過程を知ることができる。	2前	30	2		○		○		○		
○			作業療法セミナー	○Tとして中枢神経の機能解剖・局所疾患について学習する。	1後	30	2	○			○		○		
○			地域作業療法学	①地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、地域作業療法の実際を知る。 (身障) ②発達障害領域での地域作業療法の歴史を振り返り、知識基盤および実践的方法論を整理し、クライアント(こどもと家族)中心、プロセス中心の作業療法を理解する。 (発達) ③精神障害領域での地域支援における作業療法の役割を理解し、その実際を知る。 (精神)	2後	60	4	△	○	△	○		○		
○			職業関連活動	①職業の意義を理解する。 ②障害者の就労問題は社会全体の問題であることを理解する。 ③障害者雇用の現状を知る。 ④職業リハビリテーションの目的および関連職種の役割、法的支援について学ぶ。 ⑤職業リハビリテーションにおける○Tの役割および援助過程について学ぶ。 ⑥障害者が働いている現場訪問を通して、○Tが関わられることを考える。	2後	30	2	○			○	△		○	
○			評価実習	担当症例について評価計画を立てる。 評価を実施する。 評価結果から全体像をまとめる。	2後	120	2			○				△	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床実習Ⅰ	将来像を予測し、作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。 リハビリテーションチームのリハビリテーションゴールを理解し、作業療法部門としての作業療法計画（長期・短期目標）を設定する。	3前	400	8			○			△	○	○
○			臨床実習Ⅱ	短期目標達成のための作業療法プログラムを計画する。計画にそって作業療法を実施する。 対象者の状況変化に対応し、適宜再評価を行い、作業療法プログラムを修正する。 実習施設の作業療法部門の役割と特色を理解する。 作業療法士としての管理運営業務を学ぶ。社会人・職業人としての態度を修得する。	3後	400	8			○			△	○	○
合計				54科目				2930単位時間（136単位）							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各授業科目の総授業回数の3分の2以上出席し、前条第1項の規定においてC評価以上取得した者に対して履修を認定する。卒業は、最終学年次に履修すべき科目（実習を含む）を全て履修している者で学校長が認めた者とする。	1学年の学期区分	Ⅱ期
	1学期の授業期間	15週